

兵庫県西播磨地方にてコガタガムシを採集

稲谷 吉則¹⁾・大庭 伸也²⁾

2012年度の8月末に改訂された環境省レッドリスト(環境省2012)に新たに絶滅危惧Ⅱ類に指定されたコガタガムシ *Hydrophilus bilineatus casimirensis* は、国内では本州、四国～南西諸島に分布し、国外では韓国、台湾、中国、スマトラ、インド、カシミール、マレーシア、ミャンマー、タイ、ベトナムに分布する(森本2007)。本種は南西諸島では今でも多くみられ、台湾や東南アジアに広く分布する南方系の水生昆虫である(井上・中島2009)。

2012年8月25日に兵庫県西播磨地方の某所の休耕田内の水溜りにて、止水性水生昆虫の調査中に多数のガムシ *Hydrophilus acuminatus* に混ざり、偶然、1個体のコガタガムシが確認された。コガタガムシの形態的特徴である後胸板中央の突起が後ろ脚の付け根を越え、第3腹節後縁に達していたことから本種と確認した(図1)。今回得られた個体は体長25mmの雄である。筆者達はこれまでに体長30mmを下回る小ぶりなガムシを数個体採集しているが、これまでに本種を採集したことはなかった。これまでの兵庫県内における本種の分布に関する記録は見当たらず、80年代より姫路市立水族館の市

川憲平博士が西播磨地方を中心に精力的に水生昆虫類の分布調査をされているが、当地域内にて本種が確認されたことはない(市川私信)。今回の発見が初記録だと思われるので、ここに報告する。その後2012年9月2日、9月23日、10月14日、11月3日と計4回にわたって周辺地域をくまなく調査したが、再び本種を得ることはできなかった。

今回、本種を採集した付近一帯では、一昨年にはコガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* も記録されている(大庭・稲谷2010)。ここは、近年では全国的にも稀となった大型の止水性水生昆虫たちが生息する保全上重要な水辺環境の一角であり、生息場所の環境要因と連結性などの基礎情報を得るため、筆者達は現在も調査を継続している。今後も未永くこの貴重な水辺環境を残してけるよう、地主と協議しながら保全策を模索したい。

謝辞

発表を助めてくださったNPO法人こどもとむしの会の高橋耕二氏、情報を御提供頂いた姫路市立水族館の市



図1 ガムシの小さな個体(左)とコガタガムシ(右)。a) 腹面から見たところ、b) 腹面を横から見たところ。図中の矢印が後胸板中央の突起を示し、左の個体(ガムシ)に比べ、右の個体(コガタガムシ)は後脚の付け根を大きく越えていることが分かる。

¹⁾ Yoshinori INATANI 林田にタガメの里を作る会；²⁾ Shin-ya OHBA 長崎大学教育学部生物学教室

川憲平博士, 調査に御協力頂いている林田にタガメの里を作る会の中村哲也氏, 中村浩也氏, そして調査の許可とご協力を頂いている三枝正雄氏に感謝の意を表する.

参考文献

- 森本 桂 監修, 2007. 新訂 原色大図鑑 第II巻(甲虫篇). 北隆館, 東京.
- 環境省, 2012. 第4次レッドリスト. 環境省 . <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>(2012年12月24日)
- 井上大輔・中島 淳 編, 2009. 福岡県の水生昆虫図鑑 (井上大輔・中島 淳 編). 株式会社マツモト. 北九州市.
- 大庭伸也・稲谷吉則, 2010. 兵庫県西部と島根県東部に於けるコガタノゲンゴロウの記録. きべりはむし, 33(1): 15-16.